

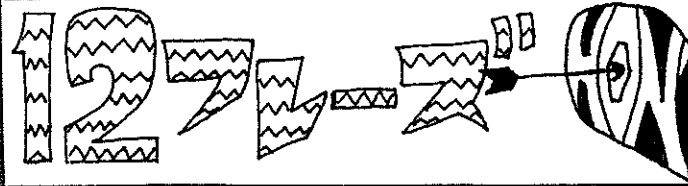
# HONTAN

図書館ボランティア「本探」が  
旬の図書館情報をお知らせします ☺ 第2号  
2009年10月1日号



## ペンキのひとりと 館長さん情報

館長さんはマンガがお好き。佐々木倫子さんの「動物のお医者さん」や「ソムリエル」「あずみ」など、守備範囲も広く、ご自宅にはマンガ部屋もあるそうです。



今年度も後半戦に入りました。今月のこのコーナーではHONTANのメンバーが本の中から励まされる、くらくらくセルフを採りました。まだ「まだ」頑張りたいと思っている方は必読です。

職員B子のくらくらく  
中原中也 岩波文庫 911.56/N  
『中原中也詩集』  
「人には自恃があればよい！  
その余はすべてなるままだ…」  
「盲目の秋」より。  
自恃 = 自分を恃(た)む。

Anneのくらくらく  
梨木杏歩 913.6/N  
『西の魔女が死んだ』  
「自分が楽に生きられる場所を求めたから  
とて、後ろめたく思う必要はありませんよ。  
学校での人間関係に悩む主人公おにに  
祖母が言うセリフ。

きゅうのくらくらく  
川上弘美 913.6/K  
『センセイの靴』  
「いつか きっと会いましょう。」  
「天井」にいてしまったセンセイが  
ツキユさんに言うセリフ。

花連のくらくらく  
伊坂幸太郎 913.6/I  
『重力ヒロエロ』  
「本当に深刻なことは、  
陽気に伝えるべきなんだよ。」  
主人公の一人、春の発する言葉。

たねちゃんのくらくらく  
村上春樹 913.6/M  
『ふしぎな図書館』  
「よく思い出せないけど、まあなんとかな  
るだろう。」  
閉じこめられた図書館から、ぼくと一緒  
に逃げた「羊男」の一言。

ちゆんのくらくらく  
ミヤコト・エンテ 943/E  
『モモ』  
「ワタシガイル！」  
少女モモは出かけた間に友達を時間泥  
棒に奪われたが、カメのカンパイヤが一言。

ねのくのくらくらく  
森絵都 913.6/M  
『カラフル』  
「しぶ」とく庄さる。」  
一度死んでしまった主人公がもう一度  
生き返る際に天使に言われた言葉。

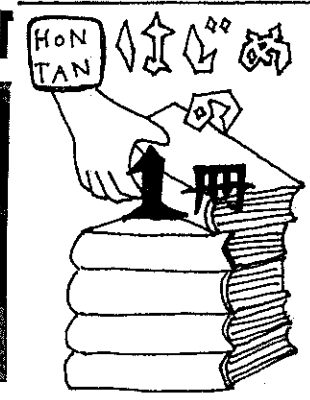
卯月のくらくらく  
青木和也 913.6/A  
『ハッピーバースデー』  
「人は変わるために学ぶんだよね。」  
兄と妹が、二人で学校から帰る途中、  
兄が勉強することの意味を妹に尋ね、  
妹が答える。

舞のくらくらく  
佐藤多佳子 913.6/S-2  
『一瞬の風になれ 2』  
「自分で夢を見ろ。  
でかい夢を見てみる。」  
陸上部の新二が、顧問の  
三輪先生に言われる一言。

魚火のくらくらく  
本多孝好 913.6/H  
『MISSING』(近日常荷)  
「私は、祈る人になりたい。」  
街を見下ろす時、そこに見える人々の  
生活を呪うのではなく、祈りたい。  
(新灯より)

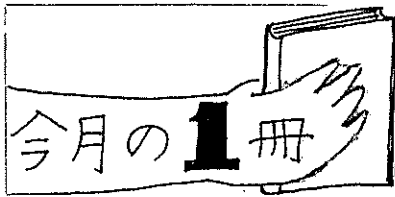
N川のくらくらく  
金井直編 911.56/N-27  
『日本詩人全集 第27巻』  
「てびてびが一匹韃靼海峡を  
渡って行った。」  
遠くへ行ける。もっと行ける。  
安西冬樹の一行詩『春』より。

とおひのくらくらく  
野中ともぞ 913.6/N  
『おどろばい金魚』  
「これが雑草で、  
誰かが決めたんだらう。」  
タミさんは、昔 彼がそう言ってい  
たと、回想する。



歴史小説を読みはじめるなら ➡ 司馬遼太郎 918.68/S-6  
『火然えよ剣』  
「難しそう」、「時代背景をあまり知らないから、読みづらそう…」  
歴史小説にそのような思いをお持ちの方もいらっしゃるかもしれ  
ません。しかし、この一冊はその考えを覆してしまおうでしょう。  
司馬遼太郎作『火然えよ剣』幕末を馬鹿けた新撰組、その副長  
こと土方歳三目線で描かれた本作は、老若男女に読みやすいであ  
ろう文体・個々の人物像がしっかり描かれている様・そして何より、  
「義」を持って生きた土方の武士としての信念、—— 静かに熱く火然  
え上がる情熱に彩られた、それが「魅力」といえましよう。  
歴史ビギナーにオススメの一冊です ♪

漁火



梨木香歩著  
『西の魔女が死んだ』  
913.6/N

近年、パソコンや携帯などが普及し便利な世の中になったと言える反面、それらに振り回された生活をしていると感じたことはないでしょうか。生きるって？死ぬってどういうこと？幸せてなに？この本を読んで自分の生き方について考えてみませんか？

タイトルにある西の魔女とは、主人公まいの祖母のこと。

この祖母が「死んだ」という知らせが来ることから始まり、まいは登校拒否にふたつ、大好きな祖母のもとで暮らした1ヶ月余りの生活を思い出します。作品を読んで、祖母の温かく本質を突いた言葉に心を打たれ、最後の場面では寂しさと優しさにグワーと胸にこみ上げるものがありました。

本作は昨年、映画化されDVDも出ています。(残念ながら大学にDVDは入っていませんが…)映画と合わせて本作を楽しんでみてはいかがでしょうか。

Anne

# 10月の本探力 No.2 本の帯

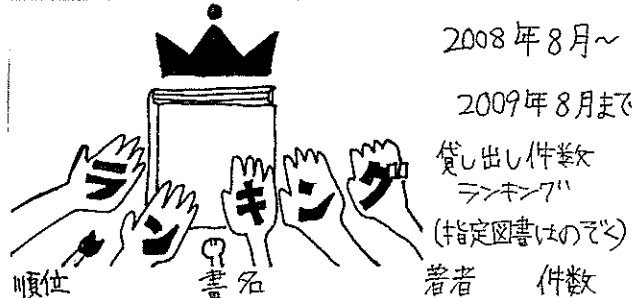
本の帯という、「邪魔だ」と思う人もいるかもしれませんが、実は本の売れ行きに関係するということを知っていましたか？

ちなみに作家の榎庭一樹さんも本を買うときに帯を見て買うことがあるそうです。

大阪では、「本の帯創作コンクール」が開催されています。

と、いう訳で、いつも本を読むときに帯を捨ててしまう人は、帯に注目してみませんか？

実はあんな有名な作家さんがコメントを書いていた!?なんてこともあるかもしれません。



2008年8月～

2009年8月まで

貸し出し件数  
ランキング  
(指定図書はのぞく)

順位	書名	著者	件数
1	食堂かたつむり	小川糸	29件
2	ラブコメ今昔	有川浩	27件
3	ダイイング・アイ	東野圭吾	26件
4	卒業 雪月花殺人ゲーム	東野圭吾	24件
5	探偵ガリレオ	東野圭吾	23件

貸し出し件数3位～5位は東野さん。先月のランキングでも圧倒的な人気でした。1位の小川さんは今後の新作にも期待しています。

## 学祭に☆☆☆参加します



週刊朝日10月2日号(第114巻第47号)  
90ページ「週刊図書館」

札幌の目撃証言をみよきた観光客が、緑のゆなさにからかす、という話を聞いたことがあります。「自然に取材する問合」とは？

週刊朝日の書評ページ「話題の新刊」では、著者が知床から西表まで全国の自然を歩いて書かれた環境エッセイです。この本を読んで、「森の国、日本」を見直してみませんか？

⇒『屋久島の作法』小野寺 浩吾(291.07/0)



北国の秋も深まって参りました。秋らしい涼しさが次第に寒さに移り行く今日この頃、新型インフルエンザを始めとする諸病気には十分お気を付け下さいね。

手洗いとお茶でのうが(オス×です)をしたら、さあ机に向かって秋の夜長を読書で満喫ーとは言っても、夜更かしはほどほどに♡

漁火

